

静岡市郊外にある静岡市立芹沢銈介美術館にて、開館35周年記念として「パリのセリザワ」と題する展示会が開催されていますので見学して参りました。館内は写真撮影禁止ですので外観とパンフレット内容を掲載します。



1
芹沢銈介美術館



1
入口への通路①



3
通路②



4
中庭の噴水

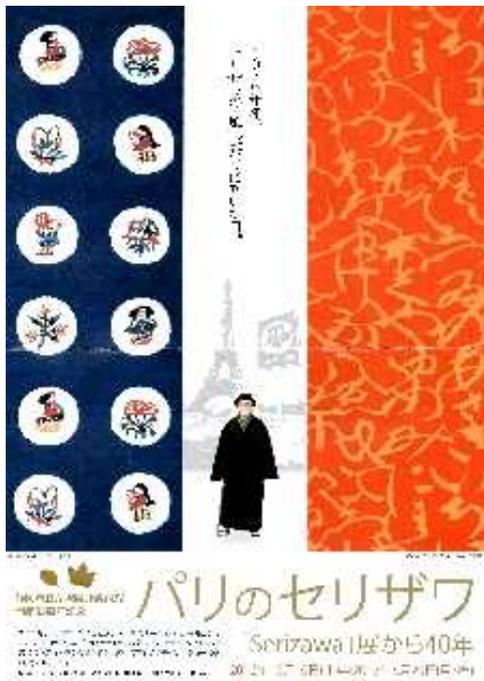


5
入口



6
坪庭の枝垂れ梅

1976年冬、パリのフランス国立グラン・パレで「Serizawa」展が開催されました。それから40年。「Serizawa」展をパリに出品された作品を含む150点の代表作と多数の資料で振り返り、芹沢銈介のモダンでグローバルな魅力に迫ります。(パンフより)



パンフ表紙

[serizawa1](#)



開きP1

[serizawa2](#)

芹沢銈介の個展「Serizawa」展がパリのフランス国立グラン・パレで開催されたのは1976年のことです。グラン・パレはピカソなどの世界的な巨匠たちの大規模な企画展が行われるギャラリーとして著名ですが、「Serizawa」展は画家バルテュスと美術評論家ジャン・レマリーの熱心な推薦のもとに実現しました。日本人としては初で、また存命中の作家が取り上げられることも異例でした。芹沢はパリ市民にとって無名の作家でしたが、市内各所に「風の字」のポスターが数多く貼り出され、また地元紙に、マティスやクレーなどの巨匠と匹敵するという評論が掲載されたこともあり、多くの入場者を集め、その高潔な美しさがパリ市民の心を揺さぶりました。あれから40回目の冬。再びパリ「Serizawa」展の軌跡をたどります。(パンフより)



開きP2

[serizawa3](#)



裏表紙

[serizawa4](#)

「パリのセリザワ」展には、1976年にパリで展示された作品80点が再び集います。のれん、屏風、着物、染絵額、肉筆手控帖、装幀本などフランスで熱い視線を浴びた代表作をどうぞお楽しみください。展示計画のための模型、展示什器、スナップ写真、新聞記事などパリ展関連の資料も多数公開しま

す。(パンフより)



出入口への通路⁷



出入口のむこうは登呂遺跡

美術館の出入口を抜けますと、目の前は登呂遺跡の敷地が広がります。まず目に入るのは再整備（平成18年～23年）以前に復元された住居と高床倉庫です。さらに歩みを進めますと再整備後に復元された住居群が見えてきます。



再整備前に復元された住居と高床倉庫⁹



再整備後に復元された住居¹⁰



住居内の様子¹¹



登呂遺跡全景¹²

遺跡から出土した貴重な遺物は静岡市立登呂博物館で展示公開されています。数多くの土器や木製の農具などから、弥生時代後期の農村の姿を表す遺跡として昭和27年に国の特別史跡として指定されました。



静岡市立登呂博物館¹³



土器などの展示室¹⁴

全国有数の規模を誇る登呂遺跡に隣接して建つ芹沢銈介美術館。悠久の時の流れに身を任せながら、パリに吹いたセリザワの「風」を感じてみてはいかがでしょうか。

※パリのセリザワ展 2017年3月20日(月・祝日)まで
※毎週月曜日は休館日ですのでご注意ください！

[PS] 館内のビデオ解説で知ったのですが、芹沢銈介の出生地が静岡市本通とのこと。同じ場所で生まれた筆者としましては、にわかに親近感がわいた次第です。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章